

溶連菌感染症

<どんな病気？>

溶連菌とは、正式名「溶血性連鎖球菌」と呼ばれる細菌です。主に「のど」に感染して、咽頭炎・扁桃炎を起こします。体に細かいを伴うと「猩紅熱」と呼ばれることもあります。

<どんな症状？>

感染してから症状が出てくるまで（潜伏期）は2～4日。幼児・学童に多く、代表的な症状は「発熱」と「のどの痛み」です。その他、舌がイチゴのようにブツブツになったり（イチゴ舌）、体に細かい紅斑ができたり、嘔吐・下痢などの胃腸症状を伴うこともあります。また、2週間ほど経過した頃に、指先の皮が剥けてくることもあります。しかし、乳児の場合には、あまりはっきりとして症状は見られません。

<どうやって診断する？>

溶連菌感染症の場合、薬の内服期間が他の病気より長いため、疑われたときには、確認のため検査を行います。今は、10分以内で判明する迅速検査キットが主流です。

<治療は？>

抗生剤を7～10日内服します。2～3日ですっかり元気になりますが、完全に溶連菌を退治するために全部飲みきって下さい。しっかり治療しておかないと、急性糸球体腎炎という腎臓の病気や、リウマチ熱という心臓の病気が続発することもありますので。また、腎臓に異常がないかどうか、必ず、発症後3～4週間くらいで、尿検査を受けてください。

<再発は？ 家族は？>

溶連菌感染症は、何度も繰り返しかかることもあります。日ごろから、うがい・手洗いの習慣をしっかりとっておきましょう。必ずしも家族皆がうつってしまうわけではありません。もし、症状がでたら、早めに受診しましょう。また、おこさんが感染を繰り返すとき、親が保菌者ということもありますので、親も検査を受ける必要があります。

<登園は？ 登校は？>

お薬を飲んで、2～3日後にはお子さんは元気になり、溶連菌自体は人に移る威力がなくなっていますので、登園・登校は可能となります。幼稚園、保育園、学校に通いながら、お薬はしっかり飲んでください。